



SSKP つくしんぼの会報紙

つくつく通信

No.96

ホームページ <http://www.normanet.ne.jp/~tsukushi/> メール fs2941@nifty.com

つくしんぼはハンディをもつ
子どもたちのための
放課後活動のスペースです

編集～NPO法人はらっば
フリースペース
つくしんぼ
町田市小川1511番地
TEL/FAX 042-796-8468

苦勞して法内移行した途端 家賃補助は打ち切りですか？

間に合わない…

前号の通信で、「つくしんぼは今年末の3月に事業移行する」と明言しました……。

移行は次年度へ先送りすることになりました。

理由は単純です。

自立支援法内の事業移行には、特定非営利活動促進法の定款変更が必要で、それには4ヶ月の縦覧期間を含めて約5ヶ月も準備期間が必要で……。

つくしんぼでは少し早めにと考え、10月から準備に取りかかったのですが、その時期からの着手ではもはや手遅れ……。

都単独補助施設に対して執拗に移行を強要し続けてきたのは東京都。でもって、NPOの所轄も東京都。だったら都の内部の横同士で処理してくればいいものを、両担当部署からの答えは「どうにもならない」の一点張り。

縦割り行政の弊害で迷惑被るのはいつも都民です。

ノープロブレム

新制度である「放課後等デイサービス事業」と「児童発達支援事業」は今年4月に正式施行されるといふのに、両事業に関しての詳細の公表はとうやうや2月にまでずれ込みそうな様子です。

こんなバタバタの最中に苦勞して無理して移行するなんて、愚の

骨頂です。

つくしんぼにしてみれば、都単独補助の一年延長が正式決定した時点で、好きで事業移行するわけでもなし、先送りなら先送りであつたく構いません。

移行が半年先になろうが一年先になろうがノープロブレム。いや、移行そのものだってしなくても全然構いません。なんてたつたつて15年もの間、同じ制度の少ない補助金ですつと頑張つてやりくりし続けてきているのですから……。

つくしんぼにしてみれば、今まで通りの放課後活動が続けられればそれでいいんです。

聞いてないよオ！

ところが昨年末になり、ギョッとすると話を耳にしました。
法内移行後は家賃補助が打ち切りになる……と言つたのです。

つくしんぼとしてみれば、行政側の都合で仕方なく事業移行するだけ。

活動内容を変えたくもない。にもかかわらず事業移行すると現状維持の活動では報酬額が減つてしまふというのに。市からの支出額はこれまでの三分の一から四分の一に減り、行政側の財政状況、かえつてラクになるといふのに……。

一体なぜ……？

どうにも納得いかないのが、障がい福祉課の窓口へ。素朴な疑問をぶつけてさせて頂きました。

わかりやすい説明

課長からの返答の説明はとつてもわかりやすいものでした。

「障がい福祉課の管轄する自立支援法内の施設(都単独補助施設を含む)に対する家賃補助の要項がある。が、つくしんぼの移行先となる放課後等デイサービス事業および児童発達支援事業は児童福祉法内の施設へ移行することになり、

町田市では担当窓口が「地域福祉部・障がい福祉課」から「子ども生活部・子育て支援課」に移行となるのだが、子ども福祉部には家賃補助の要項が存在しないため」なのだそう。

だったら簡単。事業の移行に伴い、子育て支援課の方にも家賃補助の要項をつくつて貰えば済むだけのこと……と思うのが、一般市民のごく当たり前の考え方、だと思つたのですが。

それが簡単に通用しないところが、東京都も町田市も一緒。縦割り行政の弊害で迷惑被るのはいつも市民です。

スムーズな事業移行???

東京都は数年前から言つています。「既存施設にはスムーズな事業移行を」と。

でも、家賃補助を打ち切られたらスムーズな事業移行なんて不可能です。スムーズな移行を邪魔しているのは東京都であり、町田市なのです。

この言動不一致ばかりの行政の状況ってなんとかならないものなのでしょう。うか。ねえ、都議会議員さん&市議会議員さん達……。

サポーター「ご支援

ありがとうございます
山下様、原子様、西田様、西京様、川本様、萩村様、紺野様、三田村様、伊藤齒科様、周東様、小田島様、大石様、鈴木様、山之内様
(4月～12月末現在 94名)

税制上の優遇措置の受けられる「認定NPO法人」認可に向け、三千円×100人以上の寄付者を目標としています。

ボランティア「ご寄付

ありがとうございます
三箇山様、山下様、山本様、宮崎様、井上様、タイム様、越村様、行田様、萩原様、渡辺様、高尾様、佐藤様、藤田様、堀様、横林様、キクヤ昭島店様、東京善意銀行様、木下財団様、東京都馬主協会様、東京都社会福祉協議会様、町田市社会福祉協議会様
(9月～12月)

♪♪つくしんぼ日記①♪♪

11月5日(土)

すっかり恒例にさせて頂いてしまっているサツマイモ掘り。今年からつくしんぼに参加しているハルキ君も、大きなオイモを手にとり、ホラ、大喜び!!
井上さま、毎年ありがとうございます。m(____)m



♪♪つくしんぼ日記②♪♪

12月21日(水)

こっちは恒例、クリスマス会。古くて狭いつくしんぼの室内に大人と子どもあわせて40人以上。床がぬけないかとハラハラドキドキ……。

今年のビンゴは、ハサミでヒソを切ると賞品が天井から落ちてくる仕掛けなので、選びたいものを自由に選べず、どの賞品が手に入るかわからないのでハラハラドキドキ……。

ゲストのサンタさんからもプレゼントを頂くことができました。ただ、サンタが苦手なユイちゃんは、いきなり現れた赤いおじさんにハラハラドキドキ……。(^o^)

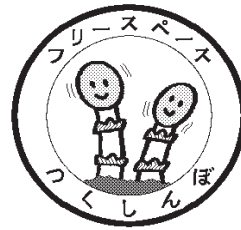




SSKP

つくつく通信

「つくしんぼ」はハンディをもつ子どもたちのための放課後活動のスペースです



★★★★★★★★★★★★★★
つくしんぼの活動は月曜～金曜日
放課後～午後 5 時 30 分まで
ボランティアさんを募集中です
興味ある方はご連絡ください
★★★★★★★★★★★★★★



「つくしんぼ」のある町

✍ 佐藤 正子

第二小学校にある「学童 21」をやめた後、年齢的にも、もう障がい子どもたちとごいっしょさせていただくことはないと思いました。去年の 3 月です。

2002 年春、「木曽境川クラブ」に配属されて 6 年、学童 21 に移って 2 年です。誇るほどのキャリアではありませんが、自分の中では、何か大きなものを失ったような気がしました。木曽境川クラブは、多くの障害のお子さん、とりわけ重度の障がい児が集まっているので有名な施設でした。それだけに、私にとって、人生の半ばをすぎて、思いもよらない新しい経験をさせていただいたのです。

知的障がいと身体障がい、さらに難病を負っている三重苦の子どもさんの介護は、腕力や心遣いだけではどうにもなりません。自閉の子どもは、どうやって心を通い合わせたらよいのか、

全く雲をつかむようでした。多動の子どもはその動きを追うだけで、くたくたになってしまいます。あつという間に金網の塀を伝って櫓の木に登り、降りることができなくなった子。ジャングルジムのでっぺんから飛び降りようとした子。ぎゃくに、促されなければ、部屋の決まった場所を一步も動かない子もいました。さまざまな障がい児のお世話は、いつも自分の限界を思い知らされ、自分はなんてダメなのだろうと碎かれる毎日でした。

じつは、障がい者のことは多少、知っているつもりでした。母方の叔父が小児まひの後遺症で、見た目も痛々しい姿だったからです。叔父は大正 5 年の生まれでした。当時は、病気にかかって重い障害を負っても、良い治療もリハビリもなかったのでしょう。体をゆがめて、やっと歩き、舌がつるので言葉もほとんど聞き取れないほどでした。叔父は四人の女の子のあとに生まれた跡取り息子でしたが、仕事もできず、父親（祖父）が亡くなって家業が潰れてからは、自宅を細かく仕切って間貸しし、奥さんが和裁を教え、仕立物をして生活を支え、従姉弟たちは学校に行く前に卸売市場でアルバイトをしていました。

社会的に、障がい者への理解は皆無に等しく、行政による福祉的な施策もない時代です。障がい者は、家族内の「血筋」（遺伝）の結果か、先祖や自分の前世の罪などというひどい説がまかり通っていて、家族に障がい者がいると縁談や就職に差し障ると、むしろ、隠す人が多かったのです。叔父が座敷の奥に座って、修養書や

お経を読んでいた姿が、いまでも眼に残っています。もし、私が、いまの分別と信仰があれば、「おじさんが病気になったのは、だれのせいでもないわ。前世の因縁なんてないのよ。ほんとうは社会の人みんなで、叔父さんを支えなければいけないのよ。」と言ってあげられたと思うのですが、その根拠がはっきりわかったのは、ずっと後年なのです。

今年の春、偶然、小山さんとお会いし、小山さんが関わっておられる障がい児の放課後施設に誘っていただきました。当初は、いっしょに 21 をやめた他のふたりの方がお若いので、そちらに連絡しましたが、彼女たちは、ともに親御さんの介護などに忙しくて、私が、こちら、「つくしんぼ」にお世話になることになったのです。

ドキドキの数か月のうちに、少しようすがわかってきました。「つくしんぼ」ってなんと不思議な空間！ 町田街道沿いのにぎやかな住宅街に、ひっそりと田舎があって、野菜畑が開け、柿の木の下で子どもたちがのびのびと遊んでいるのです。

お母さん方の笑顔もすてきで、遠い日の伯父の家の暗さは、もう過去の時代であるのがうれしいですね。

運営には、もとより、いろいろ御苦労があるようですが、素晴らしいお働きだと思います。遊んであげているのか、遊んでもらっているのかわからない私ですが、仕事の日にはカレンダーにしっかりとマークをつけて、前の日から張り切っています。思いがけないご縁を、感謝している毎日です。

ありがとう 東京都馬主協会さま

築 60 年を超える建物の台所、はじめて改装することが出来ました。システムキッチンなんてつくしんぼには似合いませんが。(^^; 東京都馬主協会様、ありがとうございました。m(____)m



ありがとう 木下財団さま

子どもには量を大切になんて発想はありません。ボロボロにすり切れていた量でしたが、新品の抗菌量に張り替えさせて頂きました。木下財団様、ありがとうございました。m(____)m

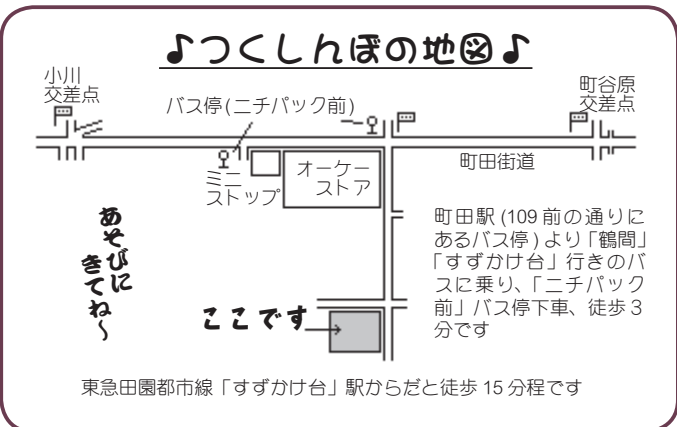


ありがとう 東京都協同募金さま

赤い羽根協同募金からの寄付金で、今年度は笛を始めとして、音楽活動に使用する各種の楽器を購入させて頂きました。東京都協同募金会様、ありがとうございました。m(____)m



発行 東京都世田谷区砧 6-26-21
障害者団体定期刊行物協会 定価 50 円



「はらっぱ&つくしんぼ」サポーターご支援のお願い
フリースペースつくしんぼはハンディをもつ子どもたちの放課後活動施設です。
1996 年に自主グループとして開所、1998 年に東京都通所デイグループ事業認可、2007 年からは運営主体を NPO 法人はらっぱに移行し、運営を続けています。
NPO 法と税制改正法を受け、はらっぱも「認定 NPO 法人」取得を考えています。取得後は寄付者に寄付金控除が適用されます。
よろしかったら「サポーター」になってください。一口 3000 円でお願ひさせていただきます。3000 円×100 人が認定 NPO としてのクリア条件となっています。
サポーターの皆様には、なにも出来ないのですが、この会報紙「つくつく通信」だけは年四回送付させて頂きます。よろしく願ひいたします。

郵便振替口座番号 00120-7-168283
加入者口座名称 フリースペースつくしんぼ